



橋本 学 教授

橋本 学 教授 略歴

(学歴・職歴)			
昭和	32年	1月 31日	和歌山県海南市に生まれる
	50年	4月	京都大学理学部入学
	54年	3月	同 卒業 (物理科学系)
	54年	4月	京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻修士課程入学
	56年	3月	同 修了
	56年	4月	京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻博士後期課程進学
	59年	3月	同 研究指導認定退学
	59年	4月	建設省国土地理院入省
	59年	11月	京都大学理学博士学位授与
平成	元年	10月	科学技術庁派遣長期在外研究員 (米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校地球惑星科学科客員研究員) (平成2年9月まで)
	3年	4月	科学技術庁研究開発局企画課防災科学技術推進室長補佐
	5年	4月	建設省国土地理院地殻調査部地殻変動解析室長
	8年	5月	同 観測解析課長
	9年	4月	京都大学防災研究所助教授 (地震予知研究センター)
	13年	5月	同 教授
	19年	4月	同 副所長 (将来計画担当, 平成21年3月まで)
	22年	10月	同 副所長 (研究教育担当, 平成24年3月まで)
	31年	4月	同 所長 (令和3年3月まで)
	4年	3月	京都大学定年退職
令和	4年	4月	京都大学名誉教授
	4年	4月	東京電機大学理工学研究科建築・都市環境学専攻特別専任教授

(学会・委員等歴)			
平成	6年	4月	科学技術庁, 「日本海東縁部の地震発生ポテンシャル評価に関する総合研究」研究推進委員会委員 (平成9年3月まで)
	6年	4月	(財) 地震予知総合研究振興会, サイモテクトニクス研究会シミュレーション部会委員 (平成9年3月まで)
	7年	4月	科学技術庁 「巨大地震災害軽減のための地震発生機構のモデル化・観測システム高度化に関する調査研究」調査研究推進委員会委員 (平成8年3月まで)
	7年	10月	(財) 日本測量協会, 兵庫県南部地震に伴う神戸市周辺地域の公共基準点の変動調査検討委員会委員 (平成8年3月まで)
	7年	11月	日本学術会議地震学研究連絡委員会地震予知小委員会委員 (平成12年7月まで)
	7年	4月	日本測地学会評議員 (現在まで)
	8年	9月	科学技術庁, 地震調査研究推進本部専門委員 (地震調査委員会長期評価部会北日本・西日本分科会) (平成9年3月まで)
	8年	4月	日本地震学会評議員 (平成12年12月まで)
	9年	12月	科学技術庁, 地震調査研究推進本部専門委員 (地震調査委員会長期評価部会) (平成14年1月まで)
	10年	10月	International Symposium on GPS: Application to Earth Sciences and Interaction with Other Space Geodetic Techniques (GPS99 Tsukuba), 実行委員会委員, 1999年10月18日～22日, 茨城県つくば市
	10年	4月	東京大学地震研究所, 共同利用委員会委員 (平成12年3月まで)
	10年	1月	International Workshop on Recurrence of Great Interplate Earthquakes and its Mechanism, 実行委員会委員, 1999年1月20～21日, 高知県高知市
	10年	4月	日本測地学会編集委員編集担当 (平成11年3月まで)
	11年	6月	東京大学地震研究所, 地震予知研究協議会「地殻活動シミュレーション」研究部会委員 (平成12年3月まで)
	11年	4月	(財) 地震予知総合研究振興会, 「陸域活断層に関する総合研究」検討委員 (平成12年3月まで)
	12年	4月	東京大学地震研究所, 地震予知研究協議会「地殻活動シミュレーション」計画推進部会委員 (平成13年3月まで)
	12年	12月	(社) 日本地震学会代議員 (平成14年4月まで)
	12年	5月	(財) 地震予知総合研究振興会, サイモテクトニクス研究会シミュレーション部会委員 (平成17年3月まで)

12年	5月	(財)地震予知総合研究振興会，陸域震源断層の深部すべり過程のモデル化に関する総合研究委員（平成16年3月まで）
12年	7月	東京大学地震研究所，地震予知研究協議会計画推進部会委員（平成18年3月まで）
13年	4月	国土交通省国土地理院，地震予知連絡会委員（平成23年3月まで）
14年	10月	奈良県，地震被害想定調査検討委員会委員（17年3月まで）
14年	10月	東京大学地震研究所，大都市圏地殻構造調査研究運営委員会委員（平成19年3月まで）
14年	5月	(社)日本地震学会理事（平成18年5月まで）
15年	11月	日本学術会議固体地球物理学研究連絡委員会委員（平成18年11月まで）
15年	12月	東京大学地震研究所，東南海・南海地震調査研究運営委員会委員（平成16年11月まで）
16年	6月	(独)宇宙航空研究開発機構地球観測研究センター，ALOS-2校正検証委員会（CVST）委員（平成19年3月まで）
16年	10月	東京大学地震研究所，海溝型地震調査研究運営委員会委員（平成21年3月まで）
16年	6月	(財)地震予知総合研究振興会，地殻活動研究委員会委員（平成27年3月まで）
17年	6月	奈良県，地震防災対策アクションプログラム策定検討委員会委員（平成18年3月まで）
18年	9月	(国研)産業技術総合研究所，客員研究員（平成20年8月まで）
19年	8月	文部科学省，地震調査研究推進本部地震調査委員会衛星データ解析小委員会委員（平成22年8月まで）
19年	1月	奈良県，地震防災対策アクションプログラム策定検討委員会委員（平成19年3月まで）
19年	12月	(独)防災科学技術研究所，研究開発課題外部評価委員（平成20年12月まで）
19年	4月	(社)日本地震学会海外渡航旅費助成金審査委員会委員（平成20年3月まで）
20年	12月	国土交通省国土地理院，地震予知連絡会第20期重点検討課題運営部会委員（平成21年3月まで）
20年	7月	東京大学地震研究所，地震・火山噴火予知研究協議会計画推進部会委員（平成21年3月まで）
20年	7月	(独)科学技術振興機構，日中韓協力に関する国際科学技術協力推進委員（平成21年3月まで）
21年	12月	(独)日本学術振興会，科学研究費委員会専門委員（平成23年11月まで）
21年	6月	(社)日本地震学会代議員（平成24年3月まで）
21年	7月	(財)防災研究協会，石原藤次郎研究奨学金・若手研究者研究助成金選考委員（平成23年6月まで）
22年	5月	奈良県，地震防災対策アクションプログラム推進委員会委員（平成23年3月まで）
23年	5月	奈良県，地震防災対策アクションプログラム推進委員会委員（平成24年3月まで）
23年	6月	文部科学省，地震調査研究推進本部地震調査委員会専門委員（長期評価部会海溝型分科会（第二期）委員）（平成29年3月まで）
23年	8月	内閣府，南海トラフの巨大地震モデル検討会委員（平成28年3月まで）
23年	3月	(独)防災科学技術研究所，研究開発課題外部評価委員（平成24年3月まで）
23年	4月	日本測地学会編集委員会委員長（平成26年3月まで）
23年	7月	(公社)日本地震学会東北地方太平洋沖地震対応臨時委員会委員（平成24年5月まで）
24年	6月	奈良県，地震防災対策アクションプログラム推進委員会委員（平成25年3月まで）
24年	7月	内閣府，南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性に関する調査部会副座長（25年1月まで）
24年	10月	(一財)沿岸技術研究センター，平成24年度和歌山下津港海岸海南地区津波対策事業に関する技術検討委員会アドバイザー（平成25年3月まで）
24年	11月	(特非)宇宙からの地球観測を考える会，ALOS-2研究公募（RA4）評価委員（平成25年2月まで）
24年	4月	(公社)日本地震学会代議員（平成30年3月まで）
25年	11月	日本工営（株）大阪支店，アドバイザー（平成27年3月まで）
25年	7月	(一財)沿岸技術研究センター，平成25年度和歌山下津港海岸海南地区津波対策事業に関する技術検討委員会アドバイザー（平成26年3月まで）
26年	4月	日本自然災害学会東日本大震災特別委員会委員（平成27年3月まで）
26年	7月	(公社)日本地震学会表彰委員会委員（平成29年3月まで）

26年	7月	International Symposium on Geodesy for Earthquake and Natural Hazards(GENAH), 実行委員会委員長, 2014年7月22日～26日, 宮城県松島
27年	2月	内閣府, 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会委員 (平成28年3月)
27年	1月	日本学術会議地球惑星科学委員会IUGG分科会IAG小委員会委員 (平成29年9月まで)
27年	8月	(独) 日本学術振興会, 特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員 (平成28年7月まで)
27年	10月	(有) トリプルアイ, ALOS-2第6回研究公募査読委員 (平成27年11月まで)
27年	7月	Chairman, Commission 3 (Earth rotation and geodynamics), International Association of Geodesy (国際測地学協会第3部会 (地球回転・動力学) 部会長) (令和元年6月まで)
28年	8月	内閣府, 南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性に関する調査部会委員 (平成29年3月まで)
28年	4月	日本測地学会坪井賞選考委員長 (令和元年5月まで)
28年	8月	(独) 日本学術振興会, 特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員 (平成29年7月まで)
29年	6月	山辺・県北西部広域環境衛生組合, 新ごみ処理施設整備検討委員会委員 (平成30年3月まで)
29年	12月	(独) 日本学術振興会, 科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) (基盤研究 (S)) の新規研究課題選定に係る審査意見書作成者 (平成30年1月まで)
29年	4月	日本自然災害学会評議員 (現在まで)
29年	4月	日本自然災害学会学会賞審査委員会委員 (現在まで)
29年	5月	(独) 日本学術振興会, 卓越研究員候補者選考委員会書面審査員 (平成29年7月まで)
29年	7月	Joint Scientific Assembly of IAG and IASPEI, 実行委員会委員, 基調講演, 2017年7月30日～8月4日, 兵庫県神戸市
30年	4月	山辺・県北西部広域環境衛生組合, 地震に係る分野の顧問 (平成31年3月まで)
30年	4月	日本学術会議連携会員 (令和2年9月まで)
30年	4月	日本学術会議地球惑星科学委員会IUGG分科会IAG小委員会委員 (令和2年9月まで)
31年	1月	(国開) 宇宙航空研究開発機構地球観測研究センター, アドバイザリ委員会委員 (令和2年3月まで)
31年	1月	(有) トリプルアイ, 第2回地球観測研究公募査読委員 (平成31年2月まで)
31年	4月	宇治市, 防災会議委員 (令和3年4月まで)
31年	4月	新潟大学災害・復興科学研究所, 共同研究推進委員会委員 (令和3年3月まで)
31年	4月	九州大学応用力学研究所, 応用力学共同研究拠点運営委員会委員 (令和3年3月まで)
令和	元年	6月 (国研) 防災科学技術研究所, 実大三次元振動破壊実験施設運営協議会委員 (令和3年3月まで)
令和	2年	2月 (独) 日本学術振興会, 卓越大学院プログラム (令和元年～3年度) プログラムオフィサー (令和4年3月まで)
令和	2年	9月 株式会社大崎総合研究所, 地震活動モデルの専門家としてのアドバイザー (令和2年10月まで)
令和	2年	10月 国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学減災連携研究センター, 「屏風山・恵那山断層帯 (恵那山-猿投山北断層帯) における重点的な調査観測」外部評価委員会委員 (現在まで)
令和	2年	10月 東京大学地震研究所, 協議員 (令和4年3月まで)
(受賞歴)		
平成	12年	5月 日本地震学会論文賞
	18年	9月 日本自然災害学会学術賞

橋本 学 教授 研究業績

【査読付き論文】

- 1) 橋本学 (1980) 西南日本に沈み込むフィリピン海プレートの形状と三次元応力分布 (序報), 地震 2, 33, 465-478
- 2) 橋本学 (1981) 西南日本に沈み込むフィリピン海プレートの形状と三次元応力分布 (第 2 報), 地震 2, 34, 197-211
- 3) Hashimoto, M. (1982) Numerical modeling of the 3-dimensional stress field in southwestern Japan, Tectonophysics, 84, 247-266, doi:10.1016/0040-1951(82)90162-7
- 4) Hashimoto, M. (1984) Finite element modeling of deformations of the lithosphere at an arc-arc junction - the Hokkaido corner, Japan, Journal of Physics of the Earth, 32, 373-398, doi:10.4294/jpe1952.32.373
- 5) Hashimoto, M. (1985) Finite element modeling of the 3-dimensional tectonic flow and stress field beneath the Kyushu Island, Japan, Journal of Physics of the Earth, 33, 191-226, doi:10.4294/jpe1952.33.191
- 6) 橋本学・多田堯 (1988) 北海道地方の水平変動とテクトニクス, 地震 2, 41, 29-38
- 7) 多田堯・橋本学 (1988) 1918 年 (大正 7 年) 大町地震の断層モデルとその地学的意義, 地震 2, 41, 259-262
- 8) 橋本学・多田堯 (1988) 1986 年伊豆大島噴火前後の地殻変動, 火山 2, 33, 伊豆大島噴火特集号, S136-S144
- 9) Yoshioka, S., M. Hashimoto, and K. Hirahara (1989) Displacement fields due to the 1946 Nankaido earthquake in a laterally inhomogeneous structure with the subducting Philippine Sea plate - a 3-dimensional finite element approach, Tectonophysics, 159, 121-136, doi:10.1016/0040-1951(89)90174-1
- 10) Yoshioka, S., and M. Hashimoto (1989) The stress field induced from the occurrence of the 1944 Tonankai and 1946 Nankaido earthquakes, and their relation to impending earthquakes, Physics of the Earth and Planetary Interiors, 56, 349-370, doi:10.1016/0031-9201(89)90169-6
- 11) Yoshioka, S., and M. Hashimoto (1989) A quantitative interpretation on possible correlations between intraplate seismicity and interpolate great earthquakes along the Nankai Trough, Physics of the Earth and Planetary Interiors, 58, 173-191, doi:10.1016/0031-9201(89)90053-8
- 12) 多田堯・橋本学 (1990) フォッサマグナ中・北部地域の地殻水平変動とそのテクトニックな意義について, 地学雑誌, 99, 92-97, doi:10.5026/jgeography.99.92
- 13) 橋本学 (1990) 測地測量により求めた日本列島の地震間の平均的な地殻水平歪速度(I):本州 四国 九州, 地震 2, 43, 13-26, doi:10.4294/zisin1948.43.1_13
- 14) Hashimoto, M., and T. Tada (1990) Crustal deformations associated with 1986 fissure eruption of Izu-Oshima volcano, Japan, and their tectonic significance, Physics of the Earth and Planetary Interiors, 60, 324-338, doi:10.1016/0031-9201(90)90272-Y
- 15) Tada, T., and M. Hashimoto (1991) Anomalous crustal deformation in the northeastern Izu peninsula and its tectonic significance - tension crack model, Journal of Physics of the Earth, 39, 197-218, doi:10.4294/jpe1952.39.197
- 16) Hashimoto, M., and T. Tada (1992) A model for crustal deformations associated with the 1914 great eruption of Sakurajima volcano, Kagoshima, Japan, Tectonophysics, 205, 427-436, doi:10.1016/0040-1951(92)90446-D
- 17) Hashimoto, M., T. Sagiya, S. Ozawa, and T. Tada (1993) Fault models for the crustal movements associated with the 1993 Off Kuroshio Earthquake and the Southwest Off Hokkaido Earthquake and their tectonic significance, Proc. of the CRCM'93, Kobe, December 6-11, 1993, 57-64
- 18) Ozawa, S., M. Hashimoto, T. Sagiya, and T. Tada (1993) Coseismic deformation of Okushiri Island associated with the 1993 Southwest Off Hokkaido Earthquake detected by GPS survey, Proc. of the CRCM'93, Kobe, December 6-11, 1993, 147-156
- 19) Hashimoto, M., and D. D. Jackson (1993) Plate tectonics and crustal deformation around the Japanese Islands, Journal of Geophysical Research Solid Earth, 98, B9, 16149-16166, doi:10.1029/93JB00444
- 20) 橋本学 (1995) 兵庫県南部地震に伴う応力変化:断層モデルによるクーロン破壊関数の変化の計算と地震活動の変化との比較, 地震, 48, 521-530, doi:10.4294/zisin1948.48.4_521
- 21) Tsuji, H., Y. Hatanaka, T. Sagiya, and M. Hashimoto (1995) Coseismic Crustal deformation from the 1994 Hokkaido-Toho-Oki earthquake monitored by a nationwide continuous GPS array in Japan, Geophysical research Letters, 22, 1669-1672, doi:10.1029/95GL01659

- 22) 橋本学 (1995) 測地データのインバージョン : 地殻変動の運動学的な解釈, 地学雑誌, 104, 1032-1046, doi:10.5026/jgeography.104.7_1032
- 23) Hashimoto, M., T. Sagiya, H. Tsuji, Y. Hatanaka, and T. Tada (1996) Co-seismic displacements of the 1995 Hyogo-ken Nanbu earthquake, Journal of Physics of the Earth, 44, 255-279, doi:10.4294/jpe1952.44.255
- 24) Horikawa, H., K. Hirahara, Y. Umeda, M. Hashimoto, and F. Kusano (1996) Simultaneous inversion of geodetic and strong-motion data for the source process of the Hyogo-ken Nanbu, Japan, earthquake, Journal of Physics of the Earth, 44, 455-471, doi:10.4294/jpe1952.44.455
- 25) 橋本学 (1997) 兵庫県南部地震に伴う応力変化 : 断層モデルによるクーロン破壊関数の変化の修正再計算, 地震第2輯, 50, 21-27, doi:10.4294/zisin1948.50.1_21
- 26) 橋本学 (1998) 測地測量に基づく兵庫県南部地震の地震像, 地質学論集, 51, 37-50
- 27) 橋本学 (1998) 兵庫県南部地震震源域におけるクーロン破壊関数の時間変化のシミュレーション, 地震, 50, 別冊, 229-249, https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=200902168235104156
- 28) Le Pichon, X., S. Mazzotti, P. Henry, and M. Hashimoto (1998) Deformation of the Japanese Islands and seismic coupling: an interpretation based on GSI permanent GPS observations, Geophysical Journal International, 134, 501-514, doi:10.1046/j.1365-246X.1998.00595.x
- 29) 石川典彦・橋本学 (1999) 測地測量により求めた日本の地震間の平均的な地殻水平ひずみ速度 (II), 地震, 52, 299-315, doi:10.4294/zisin1948.52.2_299
- 30) Hashimoto, M., S. Miyazaki, and D.D. Jackson (2000) A block-fault model for deformation of the Japanese Islands derived from continuous GPS observation, Earth Planets and Space, 52, 1095-1100, doi:10.1186/BF03352337
- 31) Fujihara, S., M. Hashimoto, and S. Takemoto (2001) Numerical Analysis of Back-arc Spreading Mechanism in the Okinawa Trough, Journal of the Geodetic Society of Japan, 47, 659-678, doi:10.11366/sokuchi1954.47.659
- 32) Hashimoto, M. (2001) Complexity in the recurrence of large earthquakes in southwestern Japan: A simulation with an interacting fault system model, Earth Planets and Space, 53, 249-259, doi:10.1186/BF03352382
- 33) Tabei, T., M. Hashimoto, S. Miyazaki, K. Hirahara, F. Kimata, T. Matsushima, T. Tanaka, Y. Eguchi, T. Takaya, Y. Hosono, F. Ohya, and T. Kato (2002) Subsurface structure and faulting of the Median Tectonic Line, southwest Japan inferred from GPS velocity field, Earth Planets and Space, 54, 1065-1070, doi:10.1186/BF03353303
- 34) 橋本学 (2002) 断層間の力学的相互作用を考慮した地震活動のシミュレーション, 地学雑誌, 111, 298-307, doi:10.5026/jgeography.111.2_298
- 35) Tabei, T., M. Hashimoto, S. Miyazaki, and Y. Ohta (2003) Present-day deformation across the southwest Japan arc: Oblique subduction of the Philippine Sea plate and lateral slip of the Nankai forearc, Earth Planets and Space, 55, 10, 643-647, doi:10.1186/BF03352471
- 36) 和賀俊治, 橋本学 (2003) ダイクの貫入活動と断層運動の相互作用 : 有限要素法による数値シミュレーション, 火山, 48, 1-10, doi:10.18940/kazan.48.1_1
- 37) Ito, T. and M. Hashimoto (2004) Spatiotemporal distribution of interplate coupling in southwest Japan from inversion of geodetic data, Journal of Geophysical Research B: Solid Earth, 109, 2, B02315 1-20, doi:10.1029/2002JB002358
- 38) Takahashi, H., S. Nakao, N. Okazaki, J. Koyama, T. Sagiya, T. Ito, F. Ohya, K. Sato, Y. Fujita, M. Hashimoto, Y. Hosono, T. Kato, T. Iinuma, J. Fukuda, T. Matsushima, Y. Kohno, and M. Kasahara (2004) GPS observation of the first month of postseismic crustal deformation associated with the 2003 Tokachi-oki earthquake (M-JMA 8.0), off southeastern Hokkaido, Japan, Earth Planets and Space, 56, 377-382, doi:10.1186/BF03353068
- 39) Hashimoto, M., K. Onoue, F. Ohya, Y. Hosono, K. Segawa, K. Sato, and Y. Fujita (2005) Crustal deformations in Kii peninsula associated with the SE off the Kii peninsula earthquake sequence of September 5, 2004 derived from dense GPS observations, Earth Planets and Space, 57, 185-190, doi:10.1186/BF03351813
- 40) Nishimura, S., M. Hashimoto, and M. Ando (2004) A rigid block rotation model for the GPS derived velocity field along the Ryukyu arc, Physics of the Earth and Planetary Interiors, 142, 185-203, doi:10.1016/j.pepi.2004.11.005
- 41) Hashimoto, M., N. Choosakul, M. Hashizume, S. Takemoto, H. Takiguchi, Y. Fukuda, and K. Fujimori (2006) Crustal deformations associated with the great Sumatra-Andaman earthquake deduced from continuous GPS observation, Earth Planets and Space, 58, 127-139, doi:10.1186/BF03353369
- 42) Pollitz, F.F., P. Banerjee, R. Bürgmann, M. Hashimoto, and N. Choosakul (2006) Stress changes along the Sunda trench following the 26 December 2004 Sumatra-Andaman and 28 March 2005 Nias earthquakes, Geophysical Research Letters, 33, 6, doi:10.1029/2005GL024558

- 43) Nishimura, S., and M. Hashimoto (2006) A model with rigid rotations and slip deficits for the GPS-derived velocity field in Southwest Japan, *Tectonophysics*, 421, 187-207, doi:10.1016/j.tecto.2006.04.017
- 44) Kobayashi, T., and M. Hashimoto (2007) Change of strain rate and seismicity in the Chubu district, central Japan, associated with a Tokai slow event, *Earth Planets and Space*, 59, 351-361, doi:10.1186/BF03352695 (2009 年日本地震学会論文賞受賞論文)
- 45) Hashimoto, M. (2007) Intrinsic difficulties in the strategy of crustal deformation research based on continuous observation in vaults for earthquake prediction, *Journal of the Geodetic Society of Japan*, 53, 183-195, doi:10.11366/sokuchi1954.53.183
- 46) Fukushima, Y., T. Ozawa, and M. Hashimoto (2008) Fault model of the 2007 Noto Hanto earthquake estimated from PALSAR radar interferometry and GPS data, *Earth Planets and Space*, 60, 99-104, doi:10.1186/BF03352768
- 47) Hashimoto, M., H. Takahashi, R. Doke, M. Kasahara, A. Takeuchi, K. Onoue, Y. Hosono, Y. Fukushima, K. Nakamura, F. Ohya, R. Honda, M. Ichiyanagi, T. Yamaguchi, T. Maeda, and Y. Hiramatsu (2008) Postseismic displacements following the 2007 Noto peninsula earthquake detected by dense GPS observation, *Earth Planets and Space*, 60, 139-144, doi:10.1186/bf03352775
- 48) Katagi, T., S. Yoshioka, and M. Hashimoto (2008) Influence of temperature- and depth-dependent viscosity structures on postseismic deformation predictions for the large 1946 Nankai subduction zone earthquake, *Tectonophysics*, 454, 1-13, doi:10.1016/j.tecto.2008.01.006
- 49) Fukushima, Y., J. Mori, M. Hashimoto, and Y. Kano (2009) Subsidence associated with the LUSI mud eruption, East Java, investigated by SAR interferometry, *Marine and Petroleum Geology*, 26, 1740-1750, doi:10.1016/j.marpetgeo.2009.02.001
- 50) 榎本真梨・橋本学・福島洋・深畑幸俊 (2010) ALOS/PALSAR データを用いた 2008 年汶川地震に伴う地殻変動解析, *測地学会誌*, 56, 155-167, doi:10.11366/sokuchi.56.155
- 51) 片木武・橋本学 (2010) 三次元有限要素法を用いたスマトラ-アンダマン地震の余効変動の粘弾性緩和によるモデル化, *測地学会誌*, 56, 73-85, doi:10.11366/sokuchi.56.73
- 52) 梅田康弘・重富國宏・尾上謙介・浅田照行・細善信・近藤和男・橋本学・木村昌三・川谷和夫・大村誠 (2010) 南海地震前の井戸水の低下について一次の南海地震の予知に向けて一, *地震*, 2, 63, 1-10, doi:10.4294/zisin.63.1
- 53) Hashimoto, M., M. Enomoto, and Y. Fukushima (2010) Coseismic Deformation from the 2008 Wenchuan, China, Earthquake Derived from ALOS/PALSAR Images, *Tectonophysics*, 491, 59-71, doi:10.1016/j.tecto.2009.08.034
- 54) 橋本学 (2011) 2011 年東日本大震災--本震・誘発地震・情報 (東日本大震災速報), *自然災害科学*, 30, 27-38, https://www.jsnds.org/ssk/ssk_30_1_27.pdf
- 55) Ohzono, M., T. Sagiya, K. Hirahara, M. Hashimoto, A. Takeuchi, Y. Hosono, Y. Wada, K. Onoue, F. Ohya, and R. Doke (2011) Strain accumulation process around the Atotsugawa fault system in the Niigata-Kobe Tectonic Zone, central Japan, *Geophysical Journal International*, 184, 977-990, doi:10.1111/j.1365-246X.2010.04876.x
- 56) Hashimoto, M., Y. Fukushima, and Y. Fukahata (2011) Fan-delta uplift and mountain subsidence during the Haiti 2010 earthquake, *Nature Geoscience*, 4, 255-259, doi:10.1038/NGEO1115
- 57) Hashimoto, M. (2013) Crustal deformation associated with the 2011 Tohoku-oki earthquake: An overview, *Earthquake Spectra*, 29, S81-S98, doi:10.1193/1.4000117
- 58) Fukushima, Y., Y. Takada, and M. Hashimoto (2013) Complex Ruptures of the 11 April 2011 M-w 6.6 Iwaki Earthquake Triggered by the 11 March 2011 Mw 9.0 Tohoku Earthquake, Japan, *Bulletin of Seismological Society of America*, 103, 2B, 1572-1583, doi:10.1785/0120120140
- 59) Huang, M.-H., D. Dreger, R. Bürgmann, S.-H. Yoo, and M. Hashimoto (2013) Joint inversion of seismic and geodetic data for the source of the 2010 March 4, Mw 6.3 Jia-Shian, SW Taiwan, earthquake, *Geophysical Journal International*, 193, 1608-1626, doi:10.1093/gji/ggt058
- 60) 有本美加, 福島洋, 橋本学, 高田陽一郎 (2013) ALOS/PALSAR データを用いた InSAR 時系列解析によるスマラン (インドネシア) の地盤沈下, *測地学会誌*, 59, 45-56, doi:10.11366/sokuchi.59.45
- 61) 橋本学, 古屋正人, 小澤拓, 福島洋 (2014) 我が国の SAR (合成開口レーダー) による地殻変動研究の展望, *測地学会誌*, 59, 119-132, doi:10.11366/sokuchi.59.119
- 62) 橋本学 (2014) 「だいち」合成開口レーダーで観測された京都盆地と大阪平野の地盤変動, *自然災害科学*, 33, 115-125, https://www.jsnds.org/ssk/ssk_33_2_115.pdf (平成 28 年度日本自然災害学会学術賞受賞論文)
- 63) Lindsey, E. O., R. Natsuaki, X. Xu, M. Shimada, M. Hashimoto, D. Melgar, and D. T. Sandwell (2015) Line-of-sight displacement from ALOS-2 interferometry: Mw 7.8 Gorkha Earthquake and Mw 7.3 aftershock, *Geophysical Research Letters*, 42, 6655-6661, doi:10.1002/2015gl065385
- 64) Fukahata, Y., and M. Hashimoto (2016) Simultaneous estimation of the dip angles and slip distribution

- on the faults of the 2016 Kumamoto earthquake through a weak nonlinear inversion of InSAR data, *Earth Planets and Space*, 68, doi:10.1186/s40623-016-0580-4
- 65) Hashimoto, M. (2017) Ground deformation in the Kyoto and Osaka area during recent 19 years detected with InSAR, *International Association of Geodesy Symposia*, 145, 155-164, doi:10.1007/1345_2016_222
- 66) Yang, Y.-H., M.-C. Tsai, J.-C. Hu, M. A. Aurelio, M. Hashimoto, J. A. P. Escudero, Z. Su, and Q. Chen (2018) Coseismic Slip Deficit of the 2017 Mw 6.5 Ormoc Earthquake That Occurred Along a Creeping Segment and Geothermal Field of the Philippine Fault, *Geophysical Research Letters*, 45, 2659-2668, doi:10.1002/2017GL076417
- 67) Fukushima, Y., M. Hashimoto, M. Miyazawa, N. Uchida, and T. Taira (2019) Surface creep rate distribution along the Philippine fault, Leyte Island, and possible repeating of Mw~6.5 earthquakes on an isolated locked patch, *Earth Planets and Space*, 71:118, doi: 10.1186/s40623-019-1096-5, doi:10.1186/s40623-019-1096-5
- 68) Meneses-Gutierrez, A., T. Nishimura, and M. Hashimoto (2019) Coseismic and postseismic deformation of the 2016 central Tottori earthquake and its slip model, *Journal of Geophysical Research: Solid Earth*, 124, 2202-2217, doi:10.1029/2018JB016105
- 69) Takahashi, A., M. Hashimoto, J.-C. Hu, K. Takeuchi, M.-C. Tsai, and Y. Fukahata (2019) Hierarchical Cluster Analysis of Dense GPS Data and Examination of the Nature of the Clusters Associated with Regional Tectonics in Taiwan, *Journal of Geophysical Research: Solid Earth*, 124, doi:10.1029/2018JB016995
- 70) 橋本学 (2019) Sentinel-1 による地表変動と測地・地球科学における意義, *測地学会誌*, 64, 66-80, https://www.jstage.jst.go.jp/article/sokuchi/64/0/64_66/_article/-char/ja
- 71) 橋本学 (2020) 作られつつある地震科学と南海トラフの地震に関する臨時情報, *自然災害科学*, 39, 5-9, https://www.jsnds.org/ssk/ssk_39_1_005.pdf
- 72) 清水美香・橋本学 (2020) 京都大学「地震リスクと不確実性」ワークショップシリーズ (2016~2018 年度) 報告, *自然災害科学*, 39, 13-18, https://www.jsnds.org/ssk/ssk_39_1_005.pdf
- 73) Hashimoto, M. (2020) Postseismic deformation following the 2016 Kumamoto earthquake detected by ALOS-2/PALSAR-2, *Earth Planets and Space*, 72, 154, doi: 10.1186/s40623-020-01285-0, doi:10.1186/s40623-020-01285-0
- 74) 大谷竜・兵藤守・林能成・橋本学・堀高峰・川端信正・隈本邦彦・岩田孝仁・横田崇・谷原和憲・入江さやか・福島洋 (2021) 南海トラフ地震情報を使った防災対応上の潜在的課題群の抽出法の開発-ゆっくりすべりケースに対するテレビ報道を例に-, *日本地震工学会論文集*, 21, 34-56, doi:10.5610/jaee.21.2_34
- 75) Tha Zin Htet Tin, T. Nishimura, M. Hashimoto, E.O. Lindsey, Lin Thu Aung, Saw Myat Min, Myo Thant (2022) Present-day crustal deformation and slip rate along the southern Sagaing fault in Myanmar by GNSS observation, *Journal of Asian Earth Science*, 228, <https://doi.org/10.1016/j.jseaes.2022.105125>.
- 76) Hashimoto, M. (2022a) Is the long-term probability of occurrence of large earthquakes along the Nankai Trough inflated? – conflict between science and risk management-, *Seismological Research Letters*, 93(4), 1971-1973, doi:10.1758/022022068.
- 77) Hashimoto, M. (2022b) Is the long-term probability of occurrence of large earthquakes along the Nankai Trough inflated? – scientific review -, *Seismological Research Letters*, 93(4), 2311-2319, doi:10.1785/0220210152.
- 78) 大谷竜・入江さやか・中鉢奈津子・福島洋・横田崇・堀高峰・橋本徹夫・林能成・隈本邦彦・岩田孝仁・谷原和憲・兵藤守・橋本学 (2022) 南海トラフ地震情報の報道における論点の抽出を目的とした「ワークショップの試み—「西半割れ」ケース—, *日本地震工学会論文集*, 22, 88-108.

【国際・国内会議プロシーディング等】

- 1) Hashimoto, M., and T. Tada (1988) Crustal movements associated with the 1914 eruption of Sakurajima volcano, Kagoshima, Japan, *Kagoshima International Conference on Volcanoes 1988 Proceedings*, 288-291
- 2) Tada, T., and M. Hashimoto (1988) Recent crustal deformation around the Aira caldera, Kagoshima, Japan and its relation to the volcanism of Sakurajima volcano, *Kagoshima International Conference on Volcanoes 1988 Proceedings*, 284-287
- 3) 橋本学 (1991) 測地データから推定した日本列島のブロック運動, 第 20 回国土地理院技術研究発表会資料 (国土地理院技術資料 A・1-No.148), 69-83
- 4) 橋本学・鷺谷威 (1994) 水野浩雄氏に対するコメント, *地震予知研究シンポジウム(1994)*, 37-40
- 5) 橋本学 (1996) 測地データインバージョンによる日本列島のマイクロプレート運動, *講演集プレート運動の数値シミュレーション*, 26-31
- 6) 橋本学・ト部卓 (1997) 広域観測網 (陸域), *地震予知研究シンポジウム(1997)プロシーディング*, 15-21
- 7) 橋本学 (1997) ブロック・断層モデルに基づく西南日本の破壊の応力の時間変化のシミュレーション

- ョン, 講演集プレート運動の数値シミュレーション(2), 13-20
- 8) 橋本学 (1998) 応力再配分による断層間の相互作用を考慮した地震活動のシミュレーション, 地殻活動予測のための数値シミュレーション講演集, 33-36
 - 9) Hashimoto, M. (1999) Principal component analysis of vertical movement in the Tokai district, central Japan, Program and Abstracts, International Symposium on GPS, 4-48
 - 10) Hashimoto, M. (1999) Interaction between fault systems and long range correlation of earthquake occurrence, 地殻活動予測のための数値シミュレーション (2) 講演集, 60-65
 - 11) Hashimoto, M. (1999) Complexity in recurrence of large earthquakes in southwest Japan: a simulation with interacting fault system model, Proceedings of International Workshop on Recurrence of Great Interplate Earthquakes and its Mechanism, 189-201
 - 12) Hashimoto, M., Y. Fukushima, and T. Ozawa (2008) Coseismic and postseismic displacements from the Mozambique earthquake of 22 February 2006 detected by InSAR, European Space Agency, (Special Publication) ESA SP, 649 SP
 - 13) Kato, T., C.D. Reddy, S.K. Prajapati, F. Kimata, Agustan, I. Meilano, Y. Ohta, T. Ito, D. Darmawan, H. Andreas, H.Z. Abidin, M.A. Kusuma, D. Sugianto, T. Tabei, M. Satomura, P. Wu, and M. Hashimoto (2008) Post-seismic crustal movements derived from GPS observations due to the 2004 Sumatra-Andaman earthquake, Proceedings of the International Symposium on the Restoration Program from Giant Earthquakes and Tsunamis
 - 14) Hashimoto, M., and Y. Fukushima (2010) An Attempt to detect secular deformation associated with the subduction of the Philippine Sea plate with ALOS/PALSAR, Proceedings of 'Fringe 2009 Workshop', 30 November – 4 December 2009, ESRIN, Frascati, Italy, ESA SP-677
 - 15) Hashimoto, M., Y. Fukushima, and Y. Takada (2012) Surface movements during the 2011 great Tohoku-Oki earthquake detected by ALOS/PALSAR, Technical Report of IEICE, SANE2012, 79, 129-134
 - 16) Hashimoto, M. (2013) Ground deformation related to active faults detected by persistent scatterer InSAR, in Proc. APSAR2013, Tsukuba, Japan Sept. 2013, TH2.R1.2
 - 17) Yamada, M., M. Hashimoto, Y. Fukushima, Y. Matsushi, and M. Chigira (2013) Automatic detection of landslides from SAR images: application to the 2011 Kii landslides, in Proc. APSAR2013, Tsukuba, Japan, Sept. 2013, WE3.R2.1

【国際会議招待講演等】

- 1) Hashimoto, M., Crustal Deformation Studies in Japan with Space Geodetic Techniques, Lecture, Central Weather Bureau Taiwan, Sept. 26, 2005.
- 2) Hashimoto, M., Up and Down of the Japanese Island before and after the 2011 Tohoku-Oki Earthquake, Invited talk, USGS Wednesday Seminar, March 21, 2012.
- 3) Hashimoto, M., Surface Movements during the Great 2011 Tohoku-Oki Earthquake Detected by ALOS/PALSAR, Invited talk, ICSANE 2012, Incheon, South Korea, Oct. 10, 2012.
- 4) Hashimoto, M., Potential Earthquake and Geohazard in Bhutan, Invited talk, International Workshop on Kyoto University Bhutan Friendship Program, Sept. 12, 2012.
- 5) Hashimoto, M., Crustal Deformation Study with SAR, Invited talk, German-Japan Next Generation SAR Workshop, Tokyo, June 27, 2013.
- 6) Hashimoto, M., Crustal Deformation Study in Japan Using SAR, Invited talk, Wednesday Seminar, ESS, UCLA, April 2, 2014.
- 7) Hashimoto, M., High Resolution Monitoring of Surface Deformation with SAR, Keynote Speech, French-Japanese Symposium on earthquakes & Triggered Hazards, Orleans, France, Sept. 17, 2015.
- 8) Hashimoto, M., Preparing for Possible Gigantic Earthquake along the Nankai Trough, Invited talk, 2016 NCDR-DPRI Workshop, Uji, Nov. 7, 2016.
- 9) Hashimoto, M., The Largest Possible Nankai Trough Earthquake: Model, Long-term Forecast and Short-term predictability, Invited talk, Friday Seminar at the National Taiwan University, Nov. 18, 2016.
- 10) Hashimoto, M., Crustal Deformation Modeling Theory and Examples, Lecturer, FIG/IAG/UN-GGIM-AP/ICG/GSI/JFS Technical Seminar Reference Frame in Practice, Kobe, Japan, July 30, 2017.
- 11) Hashimoto, M., Evolution of Earthquake Science with Space Geodesy, Keynote Speech, IAG-IASPEI 2017, Kobe, Japan, July 31, 2017.

【著書 (分担執筆)】

- 1) 橋本学 (1998) 測地データに基づく震源過程, 共通編 2 (1 編地震・地震動, 2 編地盤・地質), 「阪神・淡路大震災調査報告書」, 阪神・淡路大震災調査報告編集委員会編, 丸善・日本土木学会・日本建築学会, 123-139
- 2) Hashimoto, M. (1997) Chapter 12 Changes in Coulomb failure function due to the occurrence of the M7.2

- Kobe Earthquake of January 17, 1995, as a possible measure of the change in seismicity, *Developments in Geotechnical Engineering*, 81, C, 181-197, doi:10.1016/S0165-1250(97)80013-2
- 3) 橋本学 (1998) 地震による地形変動 (分担執筆), 「阪神淡路大震災誌」, 朝日新聞社, 83-101
 - 4) 橋本学 (2001) 2.2 地震発生, 「防災学ハンドブック」(京都大学防災研究所編), 朝倉書店, 105-124
 - 5) 橋本学 (2003) 第1章地殻活動・地震・地震動, 「防災学講座2 地震災害論」(京都大学防災研究所編), 山海堂, 1-20
 - 6) 橋本学・西村宗・小林知勝 (2010) 2.2.2 測地と地殻変動, 「日本地方地質誌 九州・沖縄地方」(日本地質学会編), 朝倉書店, 31-33
 - 7) 橋本学・伊藤武男・西村宗 (2009) 5.1.2 測地と地殻変動, 「日本地方地質誌 近畿地方」(日本地質学会編), 朝倉書店, 295-298
 - 8) 寶馨・戸田圭一・橋本学編 (2011) 「自然災害と防災の事典」, 丸善出版, 306pp.
 - 9) Hashimoto, M., Y. Fukushima, and Y. Takada (2014) Coseismic deformations of the 2011 Tohoku, Japan, earthquake and triggered events derived from ALOS/PALSAR, “Studies on the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake, Natural Disaster Science and Mitigation Engineering: DPR1 reports (H. Kawase ed.)”, Springer Japan, 3-15, doi:10.1007/978-4-431-54418-0_2
 - 10) 橋本学 (分担執筆) (2014) 「楽しい調べ学習シリーズ 巨大地震 なぜ起こる? そのときどうする?」(京都大学防災研究所編), PHP 研究所, 63pp.
 - 11) Hashimoto, M.(ed.) (2017) “International Symposium on Geodesy for Earthquake and Natural Hazards (GENAH)”, Springer, 168pp.
 - 11) 加納靖之・大邑潤三, 橋本学 (監修) (2019) 「京都の災害を巡る」, 小さ子社, 121pp.
 - 12) 日本自然災害学会編 (寶馨編集委員長) (編集委員・分担執筆) (2022) 「自然災害科学・防災の百科事典」, 丸善出版, 777pp.

【査読無し論文・紀要論文・報告等】

- 1) 橋本学 (1979) これまでに“要注意”が指摘された場所について, 地震予知連絡会会報, 22, 225-231
- 2) 三雲健・平原和朗・今川一彦・橋本学 (1983) 地震学データベース JISHIN, 京都大学大型計算機センター広報, 16, 344-354
- 3) 多田堯・橋本学 (1987) 1986 年伊豆大島噴火と地殻変動, 月刊地球, 9, 396-403
- 4) 橋本学 (1992) 日本列島の歪場, 月刊地球, 号外 4, 39-45
- 5) 橋本学・小沢慎三郎・吉村愛一郎・鷺谷威・多田堯・辻宏道 (1994) 北海道南西沖地震に伴う地殻変動と断層モデル, 月刊海洋, 号外 7, 55-61
- 6) 橋本学 (1994) 地震予知における測地測量の役割: 北海道南西沖地震とノースリッジ地震の教訓, 応用測量論文集, 5, 5-12
- 7) 井元政二郎・木下繁夫・衣笠善博・橋本学・森滋 (1994) 「地震予知の体制とノースリッジ地震の前兆 (前兆現象)」(森・橋本), 「地震の概要, 地殻変動及び強震観測等 (地殻変動)」(橋本) 及び「液状化及び斜面崩壊 (斜面崩壊)」(橋本), ノースリッジ地震政府調査団調査報告書, 17-37, 49-52
- 8) 多田堯・橋本学・鷺谷威・小沢慎三郎 (1995) 1995 年兵庫県南部地震の測地学的断層モデル, 月刊地球, 号外 13, 136-140
- 9) 橋本学 (1995) 兵庫県南部地震の概要, 国土地理院時報, 83, 6-14
- 10) 多田堯・橋本学・鷺谷威 (1995) 1994 年北海道東方沖地震 地殻変動と断層モデル-全国 GPS 連続観測の成果-, 月刊地球, 17, 329-337
- 11) 橋本学 (1995) 北海道東方沖地震 証明された GPS 連続観測の威力と深まる地震の謎, 月刊測量, 44, 25-28
- 12) 橋本学 (1995) 兵庫県南部地震による地殻変動と断層運動の推定, 地質ニュース, 490, 33-40
- 13) 橋本学 (1996) 再び起こるか! 関東大地震, 地震ジャーナル, 21, 25-31
- 14) 橋本学 (1996) 応力変化と地震活動 -シミュレーション結果の何を指標にすべきか?, 月刊地球, 18, 850-853
- 15) 橋本学 (1996) 日本列島における地殻水平歪速度の運動学的一解釈, 活断層研究, 15, 125-127
- 16) Ozawa, S., M. Hashimoto, and T. Tada (1997) Vertical crustal movements in the coastal areas of Japan estimated from tidal observations, *Bulletin of Geographical Survey Institute*, 43, 1-21
- 17) 橋本学 (1998) 数値シミュレーションによる中長期地震発生確率予測手法の開発研究, 月刊地球, 号外 20, 128-131
- 18) Hashimoto, M. (1998) Simulation of Activity of Large Earthquakes in and Around Southwest Japan on the Basis of Back-Slip Model, 京都大学防災研究所年報 41, B-1, 45-59
- 19) 橋本学 (1998) 西南日本の断層系モデルに基づく地震活動のシミュレーション, 計算工学, 3,

- 20) 藤原了・橋本学・竹本修三 (1999) 深部低密度層を考慮した沖縄トラフ背弧拡大機構の数値解析, 月刊地球, 号外 25, 178-181
- 21) 橋本学 (1999) GPS 連続観測より得られた日本列島の地殻水平変動のブロック・断層モデル, 発生地震の地域性および規模予測に関する検討, 各種地震学的知見に基づく限界地震・直下地震評価の高度化に関する研究平成 11 年度経過報告書分冊 1(1), 264-290
- 22) 橋本学 (1999) ブロック・断層モデルに基づく大地震の活動のシミュレーション, 月刊地球, 21, 10, 653-659
- 23) 橋本学 (2000) 続・地殻活動の中長期シミュレーション-バックスリップ・モデルと Δ CFF-, 日本地震学会ニュースレター, 11, 5, 9-13
- 24) Memorial Conference in Kobe 実行委員会 (2000) 「ボクの不思議, 私の疑問」, Memorial Conference in Tokyo 発表ビデオ
- 25) 橋本学 (2001) 鳥取県西部地震震源域における稠密 GPS 観測(2 周波観測), 平成 12 年度科学研究費補助金(特別研究促進費)「2000 年 10 月鳥取県西部地震による災害に関する調査研究(研究代表者: 梅田康弘)」研究報告書, 57-63
- 26) 橋本学 (2001) 伊豆・東海そして南海-21 世紀の地震災害を考える-, しずおか Journal, 10, 35-42
- 27) Ando, M., M. Hashimoto, and K. Wang (2001) Preface, Earth Planets and Space, 53, 4, 233
- 28) 橋本学 (2002) 断層間の相互作用を考慮したシミュレーション, 研究集会(特定)13S-1「地震・火山噴火活動の相関とトリガリング(研究代表者: 橋本学)」研究成果報告書, 179-186
- 29) 橋本学・伊藤武男 (2002) 地殻変動から推定される芸予地震の断層運動, 平成 13 年度科学研究費補助金(特別研究促進費(1))「平成 13 年芸予地震による都市地震災害に関する総合的調査研究(研究代表者: 中山隆弘)」研究成果報告書, 15-23
- 30) 橋本学 (2003) 地下水変化に対する前駆的すべりの断層モデル, 地震予知連絡会会報, 70, 402-404
- 31) 橋本学 (2003) 1980 年代における東海地方の異常歪変化, 月刊地球, 号外 41, 20-26
- 32) 橋本学 (2003) 三角測量・GPS・ブロック断層モデル 鳥取県西部地震と歪・応力場, 月刊地球, 25, 2, 130-136
- 33) 伊藤武男・橋本学 (2003) 日本列島の移動性地殻変動, 月刊地球, 25, 2, 114-119
- 34) 橋本学 (2003) 日本列島の地殻歪場のモデル化, 月刊地球, 25, 4, 293-301
- 35) Umeda, Y., N. Oshiman, M. Hashimoto, K. Ito, J. J. Mori, K. Watanabe, S. Ohmi, and T. Shibutani (2004) A Comprehensive and Effective Earthquake Information System: Contributions to Earthquake Hazard Mitigation for a Local Government, 京都大学防災研究所年報, 47C, 71-75
- 36) 笠原稔・高橋浩晃・岡崎紀俊・中尾茂・鷺谷威・伊藤武男・大谷文夫・佐藤一敏・藤田安良・橋本学・細善信・加藤照之・飯沼卓志・福田淳一・松島健・河野 (2005) 稠密 GPS 観測による 2003 年十勝沖地震の余効変動観測, 月刊地球 号外 49, 105-111
- 37) 橋本学・尾上謙介・大谷文夫・細善信・藤田安良・瀬川紘平・佐藤一敏 (2005) 紀伊半島南東沖の地震 GPS 観測結果, 地震予知連絡会会報, 73, 543-548
- 38) 橋本学・尾上謙介・大谷文夫・細善信・藤田安良・佐藤一敏・瀬川紘平 (2005) 紀伊半島ヒンジライン GPS 観測: プレート間カップリングと 2004 年紀伊半島南東沖地震, 京都大学防災研究所年報, 48B, 157-166
- 39) Watanabe, K., Y. Umeda, K. Ito, M. Hashimoto, J. J. Mori, T. Shibutani, and T. Noguchi (2005) A Comprehensive and Effective Earthquake Information System: Contributions to Earthquake Hazard Mitigation for a Local Government (2), 京都大学防災研究所年報, 48C, 25-29
- 40) 川方裕則・豊田暁来・小林知勝・橋本学, (2007) (2-4)震源断層近傍における地震前後におけるひずみ速度および応力の変化, 3.4.3.2 歪蓄積過程についてのモデル研究, 3.4.3 断層の準静的モデルの構築と歪蓄積過程に関する研究, 「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」平成 18 年度成果報告書, 文部科学省, 689-696
- 41) 橋本学 (2007) (2-2)地殻および上部マントルの不均質構造の断層運動による地表変位に与える影響, 3.4.3.1 活断層の準静的モデル, 3.4.3 断層の準静的モデルの構築と歪蓄積過程に関する研究, 「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」平成 18 年度成果報告書, 文部科学省, 661-666
- 42) 小林知勝・橋本学・田部井隆雄 (2007) (2-1)新しい地殻構造調査結果に基づく南海トラフ沿いにおけるプレート間カップリングの推定, 3.4.3.1 活断層の準静的モデル, 3.4.3 断層の準静的モデルの構築と歪蓄積過程に関する研究, 「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」平成 18 年度成果報告書, 文部科学省, 651-660
- 43) 橋本学・植竹富一・古村孝志 (2006) 地震学-この 10 年, これからの 10 年-, 月刊地球, 28, 143-144
- 44) Watanabe, K., M. Hashimoto, T. Noguchi, N. Hirano, and J.J. Mori (2006) A Comprehensive and Effective

- Earthquake Information System: Contributions to Earthquake Hazard Mitigation for a Local Government (3), *Annals of the Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University* 49C, 55-59
- 45) 橋本学 (2006) 日本の地震学の 10 年 地震学は兵庫県南部地震にどこまで迫ったか?, 月刊地球, 28, 3, 145-155
- 46) 橋本学・N. Choosakul・橋爪道郎・竹本修三・瀧口博士・福田洋一・藤森邦夫・里村幹夫・伍培明・斎藤享・丸山隆・川村眞文・大塚雄一・加藤照之 (2006) GPS 連続観測によるスマトラ地震の地殻変動, 月刊地球, 38-48
- 47) 橋本学・福田洋一・齊藤昭則・橋爪道郎 (2008) 高サンプリング GPS で捉えた 2008 年 5 月 12 日中国・四川省の地震の地震波形, 地震予知連絡会会報, 80, 539-542
- 48) 橋本学・福島洋・榎本真梨・有本美加 (2008) 「だいち」で捉えた四川大地震に伴う地殻変動, なみふる, 69, 5
- 49) 石原和弘・橋本学・釜井俊孝・石川裕彦・戸田圭一 (2008) 防災研究の最新の動向と京都大学防災研究所の活動, 電気評論, 93, 12, 7-13
- 50) 橋本学・片木武・橋爪道郎・福田洋一・里村幹夫・伍培明・石井守・大塚雄一・加藤照之 (2009) GPS 連続観測で得られたスマトラ・アンダマン地震の余効変動とそのテクトニックな意義, 月刊地球, 31, 3, 135-142, https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=200902237141742550
- 51) 橋本学 (2010) SAR による地震像の把握, 地震ジャーナル, 50, 62-67
- 52) 里村幹夫・下中恵理・諸井和之・島田誠一・加藤照之・伍培明・橋本学・S. Kingpaiboon・T. Boossarasri (2010) タイ国内における GPS 可降水量変化について (2001 年-2006 年), 静岡大学地球科学研究報告, 37, https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=201002270227415169
- 53) Hashimoto, M., Y. Fukushima, Y. Takada, T. Ozawa, S. Okuyama, T. Abe, M. Furuya, M. Tobita, and M. Shimada (2011) Images from ALOS of the March 2011 Tohoku Earthquake, *Space Research Today*, 181, 17-19.
- 54) 大久保修平・島田誠一・福田洋一・青山雄一・西村卓也・橋本学・鷺谷威・市川隆一・日置幸介・田中愛幸・里村幹夫 (2012) 第 25 回国際測地学・地球物理学連合総会及び第 25 回国際測地学協会総会報告, 測地学会誌, 58, 1, 43-54, doi:10.11366/sokuchi.58.43
- 55) 川勝均・鷺谷威・橋本学 (2012) 地震学会は国の施策とどう関わるのか-地震研究者・コミュニティの社会的役割とは何か-, 日本地震学会モノグラフ, 1, 131-134
- 56) 橋本学 (2012) 地震科学の目標・目的と説明責任, 日本地震学会モノグラフ, 1, 73-75
- 57) 橋本学 (2012) 新しい南海トラフの巨大地震モデル, 西部地区自然災害資料センターニュース, 47, 3-7
- 58) 岩田知孝・橋本学・竹村恵二・木村治夫・楠本成寿・伊藤康人・遠田晋次 (2013) 3.2 断層帯の三次元的形状・断層帯周辺の地殻構造の解明のための調査観測, 上町断層帯における重点的な調査観測平成 22~24 年度成果報告書, 文部科学省・京都大学防災研究所, 66-163
- 59) 橋本学 (2013) 南海トラフの巨大地震と地震科学の限界, 京都大学防災研究所年報, 56B, 157-165
- 60) 日置幸介・飯沼卓史・市川隆一・太田雄策・大坪俊通・鷺谷威・島田誠一・橋本学・福島登志夫・福田洋一・ホビガー・トーマス・宗包浩志 (2014) 国際測地学協会 2013 年学術総会報告, 測地学会誌, 59, 4, 167-180, doi:10.11366/sokuchi.59.167
- 61) Hashimoto, M., R. Gross, and J.T. Freymueller (2014) The role of geodesy in earthquake and volcanic studies, *EOS*, 95, 42, 381
- 62) GENAH 実行委員会 (代表: 橋本学) (2014) 地震と自然災害のための測地学国際シンポジウム報告, 測地学会誌, 60, 2, 95-98, doi:10.11366/sokuchi.60.95
- 63) 橋本学・島崎邦彦・鷺谷威 (2015) 2011 年 3 月 3 日の地震調査研究推進本部事務局と電力事業者による日本海溝の長期評価に関する情報交換会の経緯と問題点, 日本地震学会モノグラフ, 3, 34-44
- 64) 岩田知孝・橋本学・吉村令慧・関口春子・浅野公之・竹村恵二・小川康雄・伊藤康人・楠本成寿・米田格 (2016) 3.2 断層帯の三次元的形状・断層帯周辺の地殻構造の解明のための調査観測, 中央構造線断層帯 (金剛山地東縁-和泉山脈南縁) における重点的な調査観測平成 25~27 年度成果報告書, 文部科学省研究開発局・京都大学防災研究所, 50-131
- 65) 橋本学 (2015) 書評「日本の地震予知研究 130 年史 明治期から東日本大震災まで」著者 泊次郎, 測地学会誌, 61, 2, 145-146, doi:10.11366/sokuchi.61.145
- 66) 橋本学 (2016) 国際測地学協会第 3 回実行委員会参加報告, 測地学会誌, 62, 2, 103-106, doi:10.11366/sokuchi.62.103
- 67) Hashimoto, M., M. Savage, T. Nishimura, H. Horikawa, and H. Tsutsumi (2017) Special issue “2016 Kumamoto earthquake sequence and its impact on earthquake science and hazard assessment”, *Earth Planets and Space*, 69:98, DOI 10.1186/s40623-017-0682-7
- 68) 橋本学 (2018) 地震科学の限界と大震法の終焉, パリティ, 33, 52-54

- 69) 大谷竜・林能成・橋本学・堀高峰・川端信正・隈本邦彦・岩田孝仁・横田崇・谷原和憲・福島洋・兵藤守・入江さやか (2018)「南海トラフ地震情報」の社会的影響の評価に関する学際研究プロジェクトの取り組み—どのように「理科」の情報を「社会」に活かすか?—, GSI 地質ニュース, 7, 8, 191-198
- 70) 橋本学 (2019) 2018 年 6 月 18 日大阪府北部の地震の震源域周辺の Sentinel-1 干渉解析結果, 地震予知連絡会会報, 101, 312-316
- 71) 橋本学 (2019) 伝えることは難しい, 地震ジャーナル, 68, 巻頭エッセイ
- 72) 橋本学 (2019) SAR が見えたもの見えなかったもの: 大阪北部地震と北海道胆振東部地震, 京都大学防災研究所年報, 62(B), 296 - 305

【主催・共催研究集会等】

- 1) 地震・火山噴火活動の相関とトリガリング, 京都大学防災研究所研究集会 (特定), 13S-1, 研究代表者: 京都大学科学研究所共同研究棟大セミナー室, 2001 年 7 月 17 日~18 日
- 2) 衛星搭載型合成開口レーダーを用いた地震・火山災害ポテンシャル評価手法の高度化・効率化, 京都大学防災研究所 (拠点形成) 研究集会・東京大学地震研究所共同利用・Pixel 共催 (研究代表者: 橋本学, 古屋正人), 京都大学生存圏研究所本質ホール 3 階セミナー室, 2008 年 1 月 15 日~16 日
- 3) 高分解能レーダー・リモートセンシングによる災害観測の革新, 京都大学防災研究所拠点形成研究集会, D-2 (研究代表者: 橋本学), 京都大学生存圏研究所本質ホール 3 階セミナー室, 2009 年 9 月 8 日~9 日
- 4) よりよい地震ハザード評価の出し方・使われ方, 京都大学防災研究所特定研究集会 25C-3 (研究代表者: 橋本学, 福島洋, 鷲谷威), キャンパスプラザ京都第 1 講義室, 2013 年 7 月 19 日
- 5) 地震・自然災害のための測地学国際シンポジウム (GENAH2014), 京都大学防災研究所特定研究集会, 26C-1, 情報通信研究機構 NICT 国際交流プログラム, 東京各務記念財団, 防災研究協会 (研究代表者: 橋本学), 宮城県松島町ホテル大観荘, 2014 年 7 月 22 日~26 日
- 6) 新世代 SAR がもたらす災害・環境モニタリングの進展, 京都大学防災研究所一般研究集会, 27K-08 (研究代表者: 大村誠; 所内担当者: 橋本学), 京都大学, 2015 年 12 月 1 日~3 日
- 7) 地震リスクと不確実性: 科学者と教育関係者の対話, 生存学館と共催 (研究代表者: 清水美香, 橋本学), 京都大学東一条館, 2017 年 3 月 5 日
- 8) 企業の防災対策の中で地震リスクと不確実性をどう捉えるか—企業関係者と科学者の対話から—, 生存学館と共催 (研究代表者: 清水美香, 橋本学), 京都リサーチパーク 1 号館, 2017 年 6 月 23 日
- 9) リモートセンシング技術の進展と活断層・内陸地震研究, 京都大学防災研究所一般研究集会, 29-K05 (研究代表者: 遠田晋次; 所内担当者: 橋本学), 京都大学おうばくプラザきはだホール, 2017 年 7 月 7 日~8 日
- 10) 地震の予知の実際と不確かさ, 防災・暮らしにどう活かすか—市民と科学者の対話から—, 生存学館と共催 (自然災害研究協議会近畿地区部会より支援) (研究代表者: 清水美香, 橋本学), 西新産業総合会館 Impact Hub Kyoto, 2018 年 3 月 10 日
- 11) 地学教育の展望—来たるべき南海トラフ地震に備えて—, 京都大学防災研究所一般研究集会, 30-K07 (研究代表者: 前田晴良; 所内担当者: 橋本学), 京都大学防災研究所連携研究棟 3 階大セミナー室, 2018 年 8 月 25 日~26 日
- 12) 不確実性を考慮した実践的地震災害リスクマネジメントに向けて—科学者×実践者の対話—, 生存学館と共催 (研究代表者: 清水美香, 橋本学), 京都リサーチパーク 9 階京都大学デザインイノベーション拠点, 2019 年 1 月 19 日